

# 魅力ある花き経営の実現と「蔵王の花」ブランドの確立 ～蔵王の麓から花を届けて50年～

蔵王花卉生産組合

(JAやまがた南部営農センター花き部会)

組合長 稲毛昇(上山市)

## 1 受賞者の概要

昭和45年、冷涼な中山間地の立地条件と転作田の有効活用として花き栽培が最も適していることに着目し、生産者2名がりんどう栽培を開始した。

昭和47年、「蔵王りんどう組合」を10名で設立した。その後、花き栽培は中山間地だけでなく、平坦部でも行われ、りんどう以外の花きも栽培されるようになったことから、昭和55年、「蔵王花卉生産組合」と現名称に変更した。現在、組合員数は30名で、後継者の就農等により、組合員の平均年齢は47才と若く、産地を牽引する力となっている。

当組合は6つの生産部会を組織し、組合員はいずれかの生産部会に加入し、積極的な活動を展開している。

## 2 特色ある活動

### (1) りんどうのオリジナル品種の育成

りんどう産地のさらなる発展に向け、平成14年から組合員が持つ優良品種を交配母体として、オリジナル品種の育成に取り組み、8月旧盆出荷用の青紫色の3品種を育成した。平成22年から栽培を希望する組合員に種苗供給を行うとともに、現在もさらに優良な新品種育成に向けた取組みを継続している。

### (2) 組合の研修・部会ごとの園地巡回

生産部会ごとに園地巡回を行うことで、栽培技術の向上につながっている。

組合員全員を対象に、研修会や市場視察を実施している。これらを通じて、最新の知見の収集や求められる出荷品質や販売動向、今後有望な品目等を把握している。

### (3) 各種品評会での上位入賞

当組合では、栽培技術や市場評価の向上を図るため、各種品評会への積極的な参加を推奨している。

『山形県啓翁桜品評会』では24年間連続入賞し、平成20年以降、令和4年までの15年間は、当組合員が最高賞である山形県知事賞を連続受賞するとともに、

『やまがたフラワーフェスティバル2022』では当組合員が「トルコぎきょう」で農林水産大臣賞を受賞し、高い技術力が評価されている。



「やまがたフラワーフェスティバル2022」  
表彰式

## 3 今後の発展方向

組合員の確保や「蔵王の花」ブランドの向上、JA、関係機関等と連携することで、60周年、70周年、その先に続く組合となるように発展させていく。